

環境レポート

2025

対象期間：2024 年度



共和レザー株式会社

目次

トップメッセージ	3
サステナビリティ	4
環境マネジメント	5
・推進、管理体制	5
・環境 ISO、環境方針	6
カーボンニュートラル	7
・CO ₂ 目録と実績	7
・①再エネ【太陽光発電】	8
・①再エネ【CO ₂ フリー電気】	9
・②技術革新【燃料転換】	10
・②技術革新【見える化】	11
・③日常改善【廃熱利用】	12
・③日常改善【断熱/遮熱】	13
・③日常改善【設備更新】	14
・CDP 評価	15
・非財務情報(TCFD)の開示	16
資源循環	18
・廃棄物量	18
・樹脂・基布のリサイクル	19
・水資源の循環	20
化学物質	21
・PRTR 対象物質	21
環境対応製品	22
・リサイクル PET 使用製品	22
・昇温抑制機能	22
・バイオ材料配合製品	23
・エシカルな合成皮革 Sobagni	24

社会貢献	25
・地域の清掃活動	25
・特別支援学校へ教材提供	27
・ダイバーシティ経営企業表彰	27

編集方針

環境関連の取り組みについて、広く社会へ発信することを目的としています。

※把握可能な情報からの推測が含まれ、実際の成果や業績と異なる可能性がありますことを、あらかじめご了承ください。

【対象期間】

2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

※一部、該当期間前後の内容も含みます。

【対象範囲】

共和レザーグループとして、連結子会社の内容も含みます。

【参照ガイドライン】

環境省「環境報告ガイドライン」

【発行時期】

2025 年 12 月

【お問い合わせ先】

共和レザー株式会社

<https://www.kyowale.co.jp/>

※お問い合わせフォームをご利用ください

共和レザー株式会社
取締役社長執行役員

花井 幹雄



みんなの知恵で 未来に渡そう きれいな地球

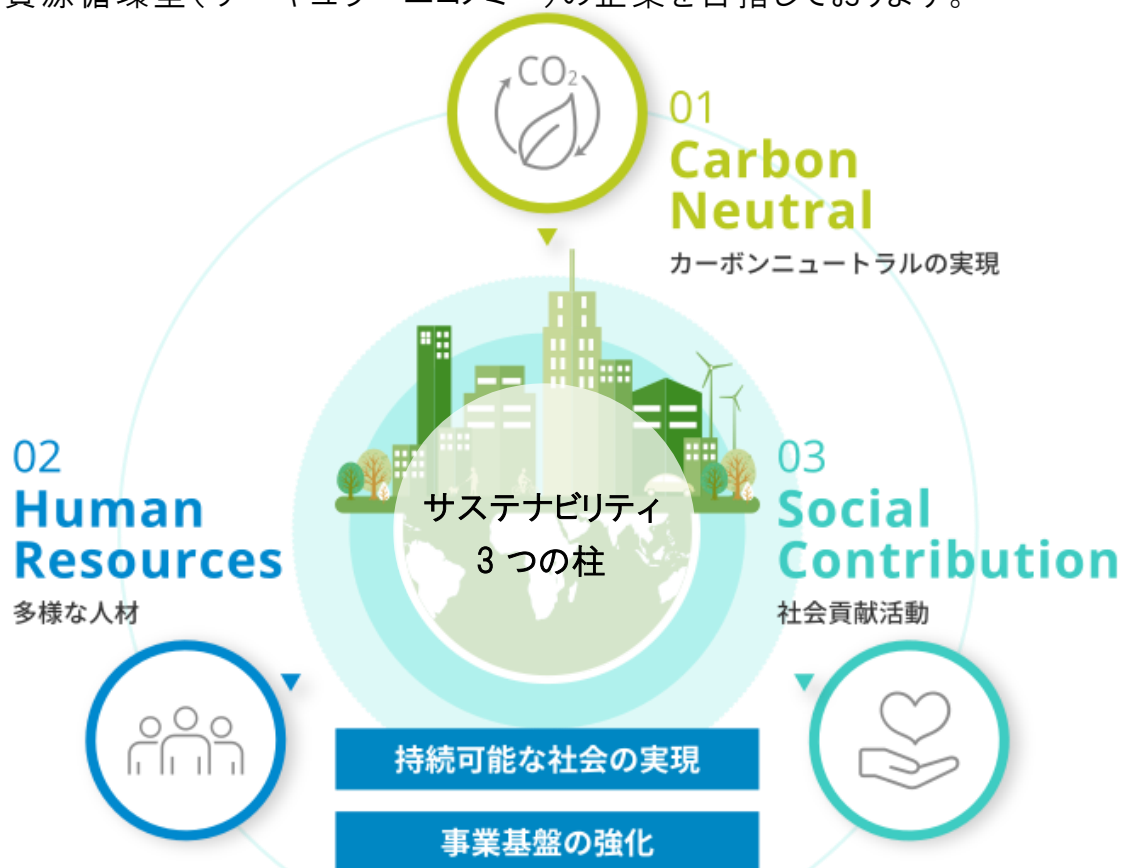
共和レザーは、1935 年の創立以来、自動車、住宅設備、家具や鞆・靴などの表皮材メーカーとして、培ってきた「製品性能」や「デザイン性」により、自動車や住宅内装などの日々の暮らしの様々なシーンで「快適な空間」を感じていただけるよう努めてまいりました。










近年では地球温暖化による気候変動が大きな課題となっており、「環境価値」のニーズが高まっています。環境スローガンとして「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」を掲げて活動しています。表皮材の提供によって車内や室内の「快適な空間」を提供するだけでなく、「地球環境」全体に対しても価値のあるモノづくりをして、未来の持続可能な社会を実現することに向けて取り組んでいます。

環境問題の中でも気候変動問題については、2050 年カーボンニュートラルを目標として活動しています。また、脱炭素だけに限らず、環境に優しい商品開発や環境負荷を与えない工法の確立により資源循環型（サーキュラーエコノミー）の企業を目指しています。環境関連の情報開示については、一昨年から「環境レポート」の作成と公開を初め、昨年から英語版の公開により海外の投資家の皆様への情報発信もはじめました。今後、活動を推し進めて、レポートの内容も拡充してまいります。

サステナビリティ

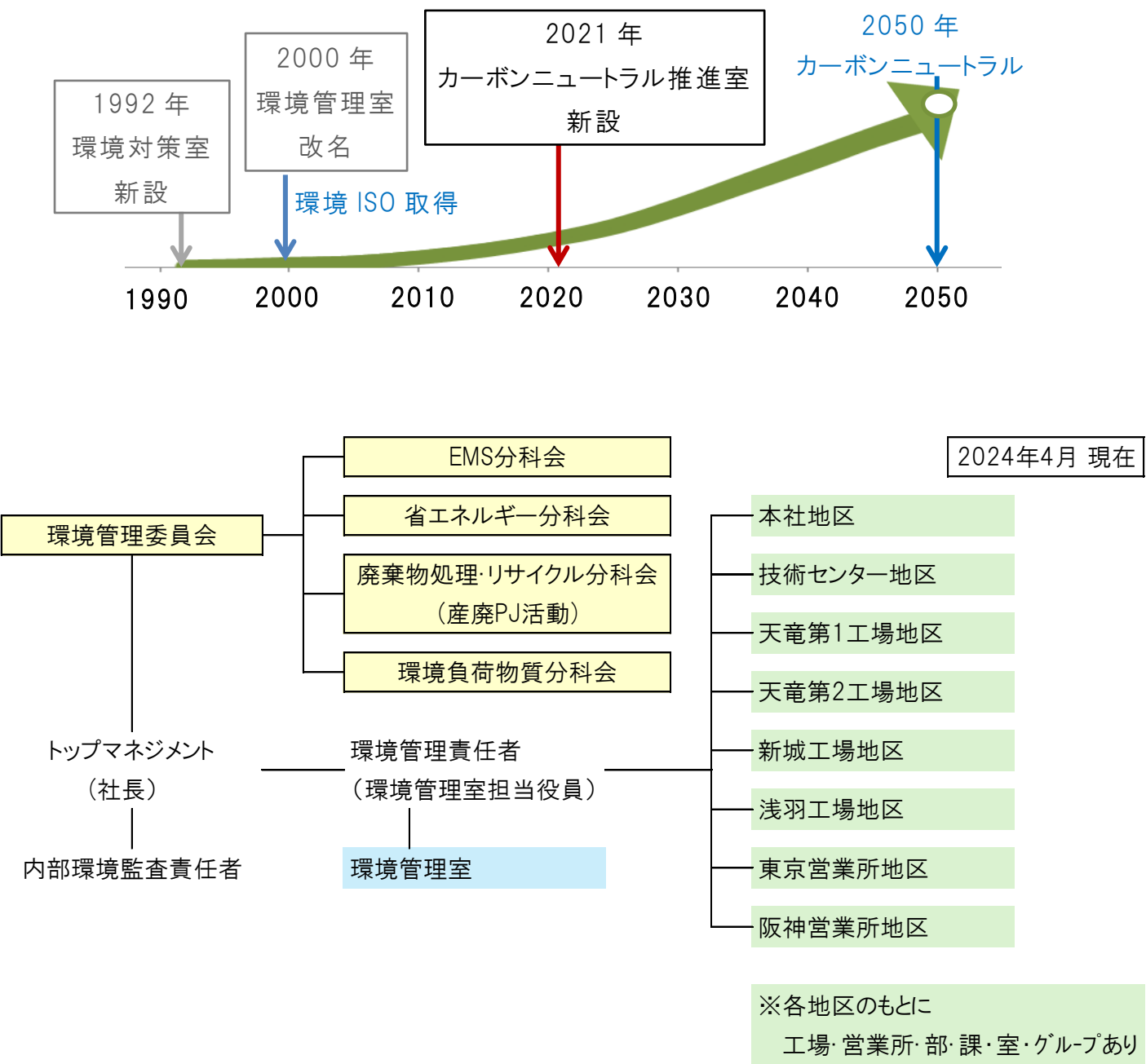
当社は、業界に先駆けて環境 ISO14001 の認証取得など、「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」をスローガンに、自動車及び住宅・住設の内外装表皮材、ファッション・生活資材用表皮材メーカーとして、人と地球に調和した企業活動を行っております。「カーボンニュートラルの実現」「多様な人材」「社会貢献活動」の3つを柱に、将来の持続的成長に向けて取り組んでおります。環境に関しては、カーボンニュートラルの実現に限らず、環境に優しい商品開発や環境負荷を与えない工法の確立により資源循環型（サーキュラーエコノミー）の企業を目指しております。



SDGs		取り組みの柱
	気候変動に具体的対策を	【01】カーボンニュートラルの実現 ・温室効果ガス(CO2)排出削減 ・CO2 排出削減に向けた製品開発
	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
	つくる責任つかう責任	
	働きがいも経済成長も	【02】多様な人材 ・男女ともに、仕事と育児の両立がしやすい 環境づくりを目指し社内制度拡充 ・健康経営の取り組み、環境整備
	ジェンダー平等を実現しよう	
	すべての人に健康と福祉を	
	住み続けられるまちづくりを	【03】社会貢献活動 ・地域社会への貢献 ・生物多様性(生態系)の保護、水質保全
	海の豊かさを守ろう	
	陸の豊かさも守ろう	

推進、管理体制

共和レザーでは、環境管理室が環境全般の管理を行っておりますが、環境問題の中でも特に気候変動対策は重要な課題だと認識しており、2021年5月にはカーボンニュートラル推進室を新設し、活動を推進しております。



ISO14001 認証取得

2000 年に永続的な環境対応のシステムが認められ、共和レザーは ISO14001 の認証を全社一括で受けることができ、その後も認証を継続しております。

3 年毎の更新審査にて、直近では 2024 年に適用規格に適合されていることが認められております。



ISO14001
JAER 0179

環境方針

「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」をスローガンに、自動車及び住宅・住設の内外装表皮材、ファッション・生活資材用表皮材メーカーとして、人と地球に調和した企業活動を行う

環境方針

- (1) 環境に関する法律・規制及び当社が同意した協定事項を順守し、環境保全に貢献する
- (2) 時代の環境ニーズを先取りした商品を市場に提供する
- (3) 企業活動による環境負荷をミニマムにする
 - 1) 環境負荷物質の使用・排出の低減
 - 2) 資源の有効利用・廃棄物の低減
 - 3) CO2 排出量削減、省エネルギーの推進
- (4) 教育等を通して、全社員の環境意識を向上する
- (5) 地域との連携を密にし、地域の環境保全活動に協力する

2018 年 8 月 1 日
共和レザー株式会社
取締役社長

以上の方針に従い、目的・目標を定め、
達成を図るとともに、定期的に見直し、継続して改善を進める

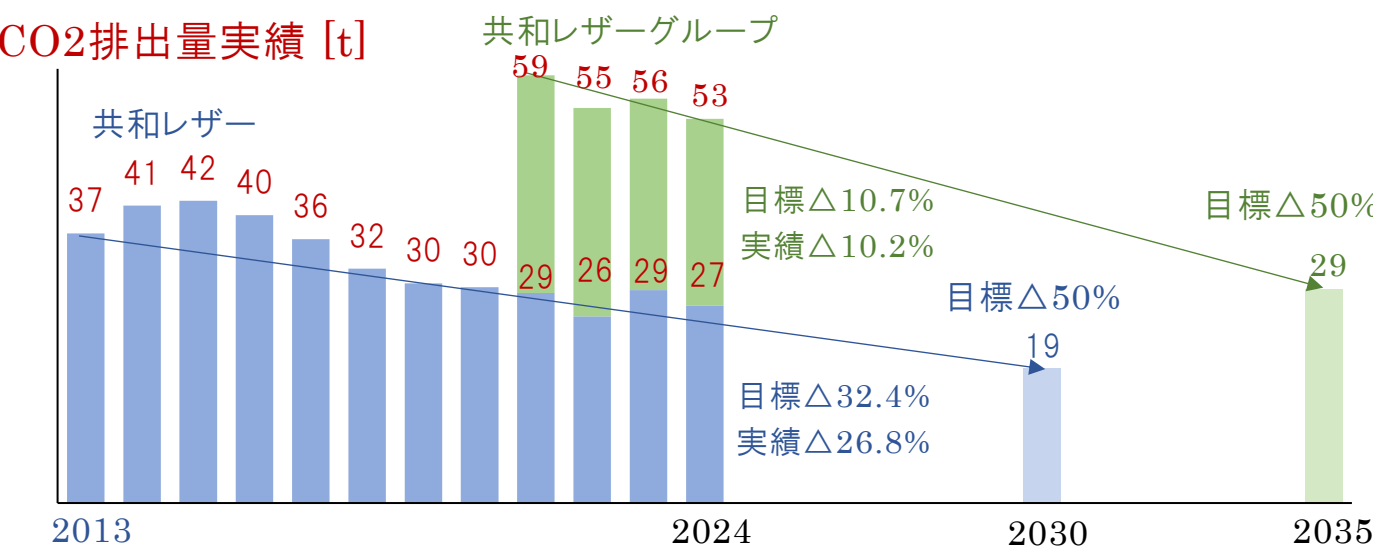
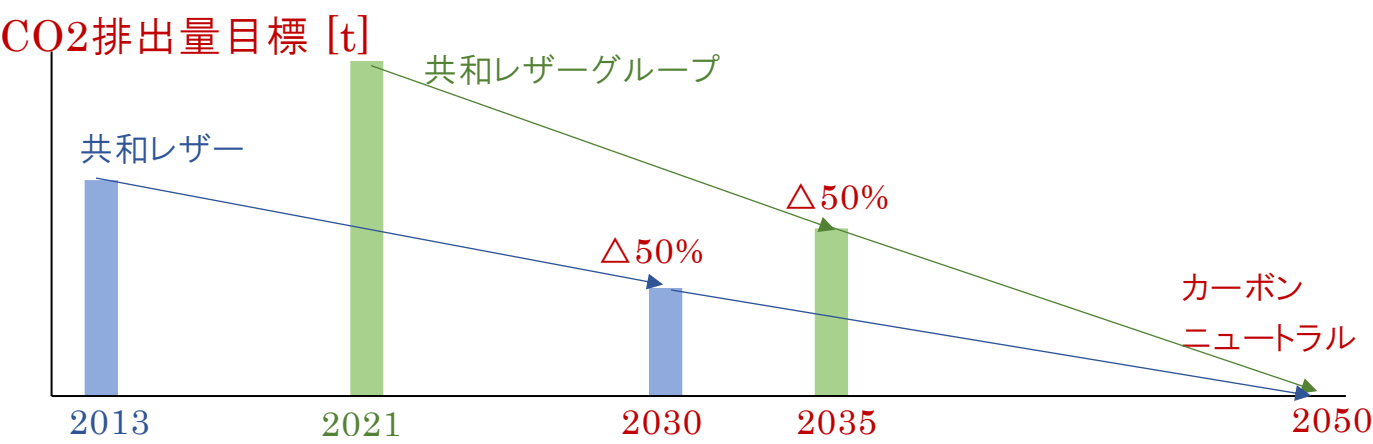
花井幹雄

CO2 目標と実績

2020 年の政府の「2050 年カーボンニュートラル宣言」を受け、2021 年に共和レザーでも、2030 年△50%(2013 年比)、2050 年カーボンニュートラルの目標を設定しました。「①再生可能エネルギーなどの導入」、「②設備投資・技術革新などの応用」、「③日常改善の推進」を CO2 排出量削減活動の軸として推進し、自社で発生する CO2 の実質ゼロを目指します。

また、共和レザーグループでは、連結子会社を含めて、CO2 排出量のグループ目標を設定しました。2035 年に△50%(2021 年比)、2050 年カーボンニュートラルを目指します。グループで連携して、一丸となって CO2 排出量削減活動を進めます。

2024 年度も、計画通りに CO2 排出量削減活動を行い、CO2 排出量が減少しました。



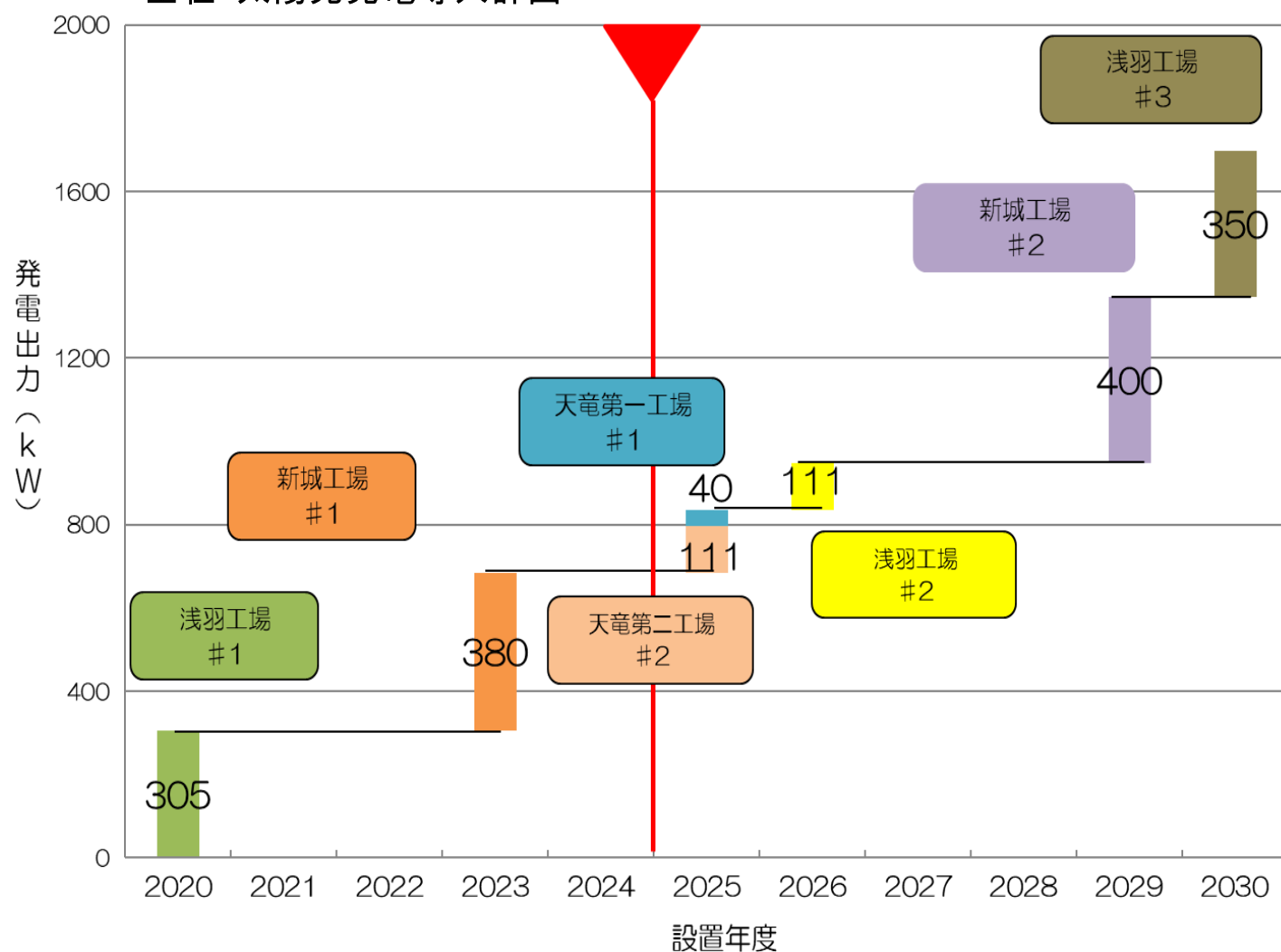
CO2 排出量 [t-CO2] (Scope1,2)	(年度)										
	2013	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
共和レザー	37,235	41,771	39,790	36,437	32,391	30,337	29,826	29,040	25,787	29,442	27,242
グループ	-	-	-	-	-	-	-	59,102	54,575	55,893	53,086

①再生可能エネルギー【太陽光発電】

2030年△50%(2013年比)CO2削減目標を達成するために、全社的な太陽光発電の導入計画を策定しました。2024年度では天竜第一工場、天竜第二工場へ導入をしており、年間約70トンのCO2削減が可能となりました。

2025年度では浅羽工場2期工事を計画しておりCO2削減を図るとともに、全工場で再生可能エネルギー比率の増加を目指します。

全社 太陽光発電導入計画



天 1 工場
90kW(2017～)



天 2 工場
40kW(2018～)



浅羽工場
305kW (2021/2～)



新城工場
380kW (2024/1～)

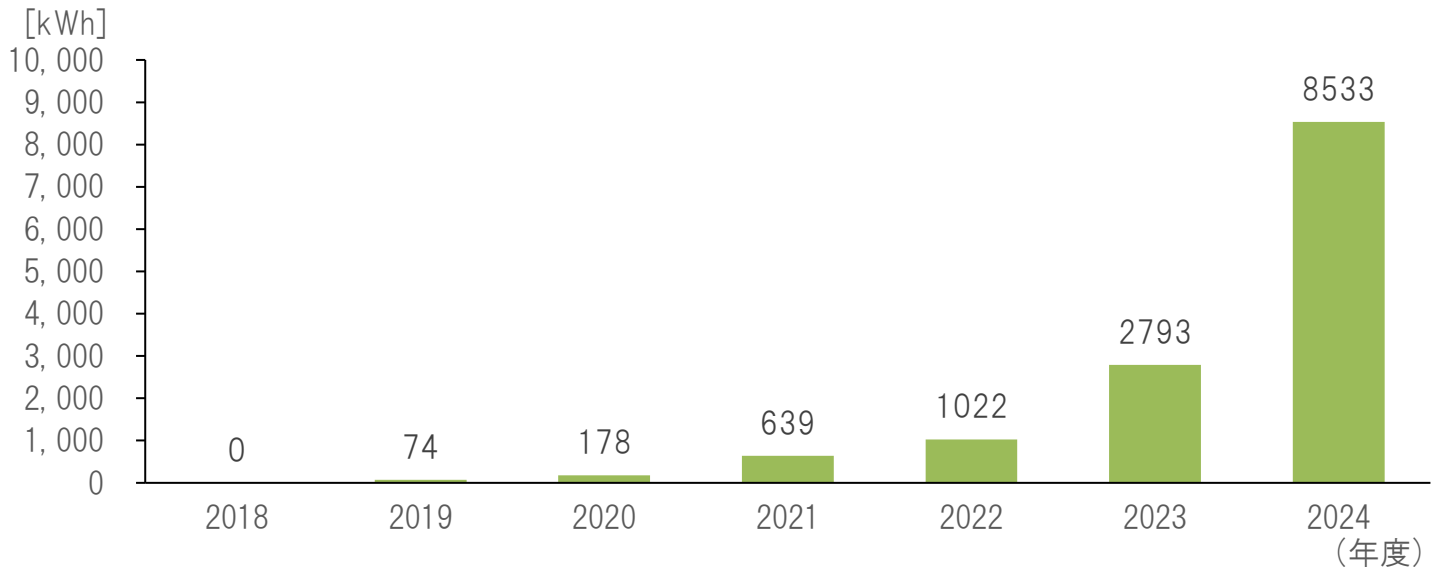
カーボンニュートラル

①再生可能エネルギー【CO2フリー電気】

共和レザーでは、2023 年より、本社と技術センターにて、中部電力ミライズの CO2 フリー電気の導入を始めました。フリー電気の購入も行っております。

また、中国拠点の共和興においても、2023 年から、カーボンニュートラル推進活動を開始し、グリーン電力の購入を始めました。

電力 再生可能エネルギー使用量 【共和グループ連結】



共和レザー
(本社、技術センター)
「CO2 フリー電気」
(中部電力)
2023 年～



共和興
(中国拠点)
「グリーン電力」
2023 年～

②技術革新【燃料転換】

■ ボイラーの燃料転換

2023年に浅羽工場の燃料をA重油からLNG(液化天然ガス)へと転換しました。LNGは大気汚染の原因となるNO_x(窒素酸化物)の発生量が少ないうえ、SO_x(硫黄酸化物)とばいじんが発生しない低炭素燃料として注目されている環境にやさしいエネルギーです。

現在、浅羽工場に続き新城工場の燃料転換(蒸気・熱媒ボイラー更新含む)を計画中です(2027年度に完了予定)。LNGサテライト設備を導入し各種ボイラーもLNG燃料専用ボイラーにすることで、運転効率の30%程向上、さらに稼働設備の負荷変動に応じた細やかな蒸気発生量をコントロールすることで省エネ改善も図ります。LNGは燃焼時のCO₂排出量も少ないため、従来のA重油ボイラーと比べ年間約800トンのCO₂削減が期待されます。



浅羽工場 LNG ボイラー化
△770 トン CO₂/年
(2021 年度比)

(写真：浅羽工場サテライト設備)

②技術革新【見える化】

■ エネルギー見える化

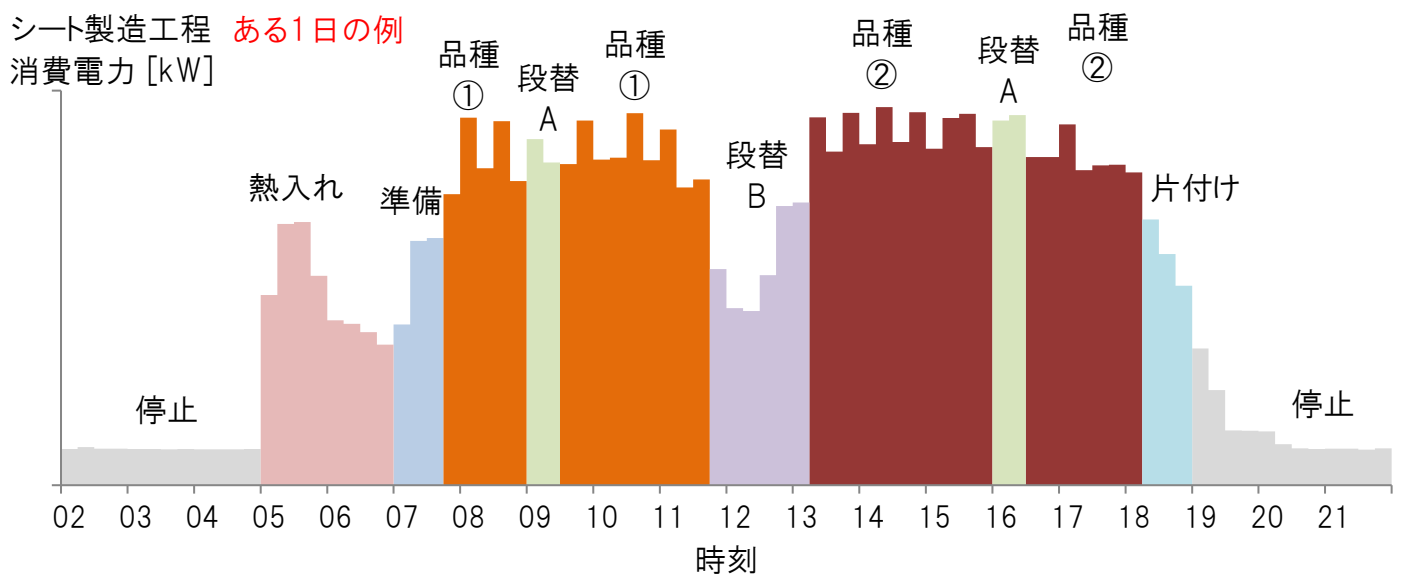
(1)計測器の設置

浅羽工場では、2021 年度に工程毎に計測可能な電力計、燃料流量計の設置が完了しています。計測値と日報の時刻を紐づけすることで、どの作業で、どれだけエネルギーを消費しているのか「見える化」ができました。

2024 年度は前年度から引き続き、天一工場、天二工場、新城工場に電力計・蒸気流量計の設置とシステムの構築を進めた結果、全工場のエネルギー見える化を完了することができました。完了したことで、サーバー上から各工場のエネルギー消費量を確認することができるようになり、エネルギーの変化点管理から更なる省エネ改善アイテムの抽出と効果出しが容易に出来るようになりました。

(2)省エネへの活用

各工場で、エネルギー見える化の省エネでの活用を進めています。下の図は、浅羽工場のシート加工工程の例で、熱入れ時間などの無駄を見つけて削減に繋がっています。



③ 日常改善 【廃熱利用】

■ 天2工場 コンプレッサーの廃熱を発泡炉へ利用 都市ガス△5.1%

コンプレッサーの廃熱を発泡炉の吸気へ取り入れ、都市ガス使用量を削減しました。

コンプレッサー廃熱利用(コンプレッサー廃熱95℃を取りこみ)



発泡炉吸気口保温



コンプレッサー廃熱
を吸気口に取りこみ

■ 天2工場 ホットウェルタンクのフラッシュ蒸気廃熱利用 都市ガス△2.93%

大気解放されているフラッシュ蒸気ロス(戻りレンの一部が自己蒸発した蒸気)の利活用を目的に、ホットウェルタンク内のボイラー給水と熱交換することでボイラー給水温度が上昇し、ボイラーの燃料使用量低減、CO₂ 排出量を削減する改善を進めています。

今年、天 2 工場 2 号棟のホットウェルタンクの改善し、CO₂排出量を削減することが出来ました。



熱交換器

ホットウェルタンク

天 2 工場 2 号棟
ホットウェルタンク

天 2 工場 2 号棟改善における
ボイラー省エネ効果(2023 年度比)

	削減量	削減率
燃料(都市ガス)	8,435 m ³ /年	2.93 %
CO ₂	19.1 t-CO ₂ /年	2.89 %

- ・ 2025 年天 2 工場本棟、
2026 年新城工場で横展実施予定
- ＜天 2 工場本棟＞
CO₂ 削減効果見込み：14.7 t/年(△0.6%)
- ＜新城工場＞
CO₂ 削減効果見込み：109 t/年(△5.4%)

天井に遮熱シートで
温度上昇を防ぐ



-5°C

反射断熱材カバー後



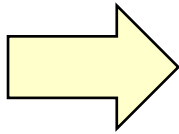
共和レザー 環境レポート 2025

③ 日常改善 【設備更新】

■ 天2工場 駆動モーターの更新(インバータ制御) 消費電力△80%

VS モーターを汎用モーター(インバータ)へ更新し、電力の削減を図りました。

テンター駆動 VS モーター 1986 年製 11kW



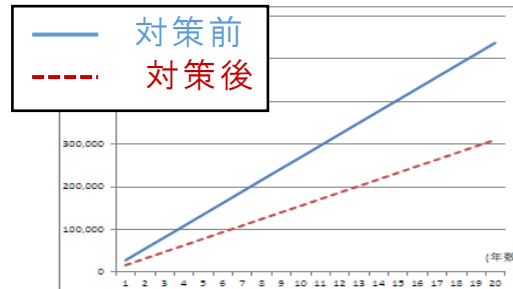
汎用モーター(11kW)+インバーター



■ 浅羽工場 省エネ型の変圧器へ更新 消費電力△40%



省エネ型 変圧器



■ 共和ライフテクノ鳴門工場 受電設備更新(高効率変圧器) 消費電力△2.5%

設備の老朽化に伴い、旧式変圧器から高効率タイプに更新しました。

柱状変圧器



キュービクル式高圧受電設備



電力△2.5%(D 装置のみ 1 日実測)
CO2△63t/年(鳴門工場全体)

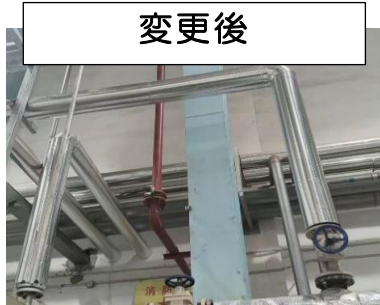
■ 共和興 熱媒電気加熱から熱媒ボイラー加熱に変更 消費電力△25%

加熱方法の変更により消費電力を低減しました。

変更前



変更後



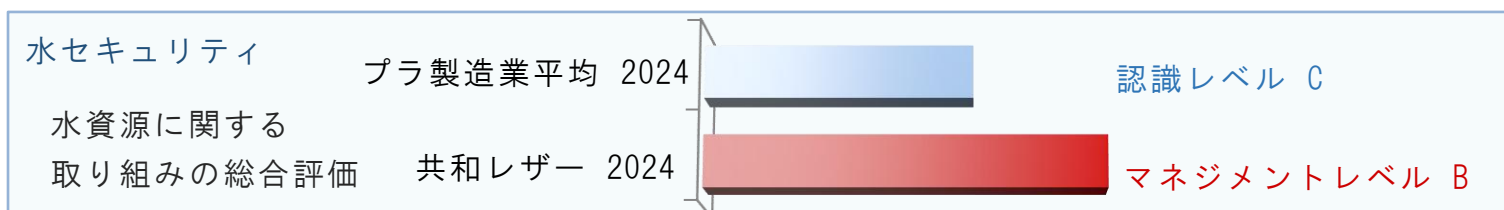
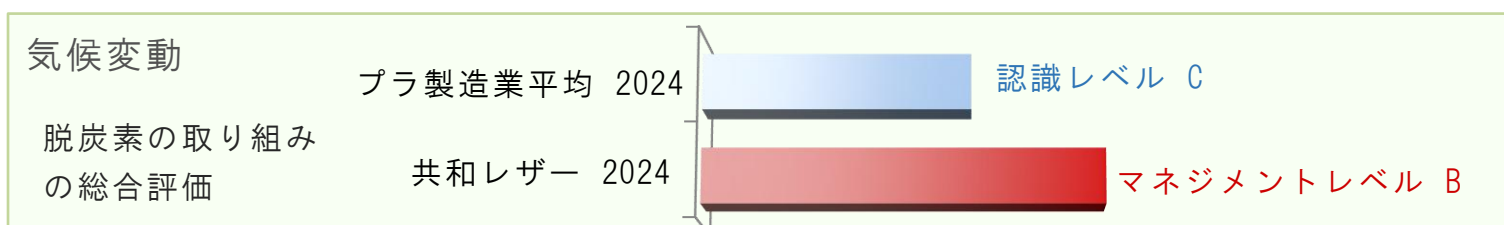
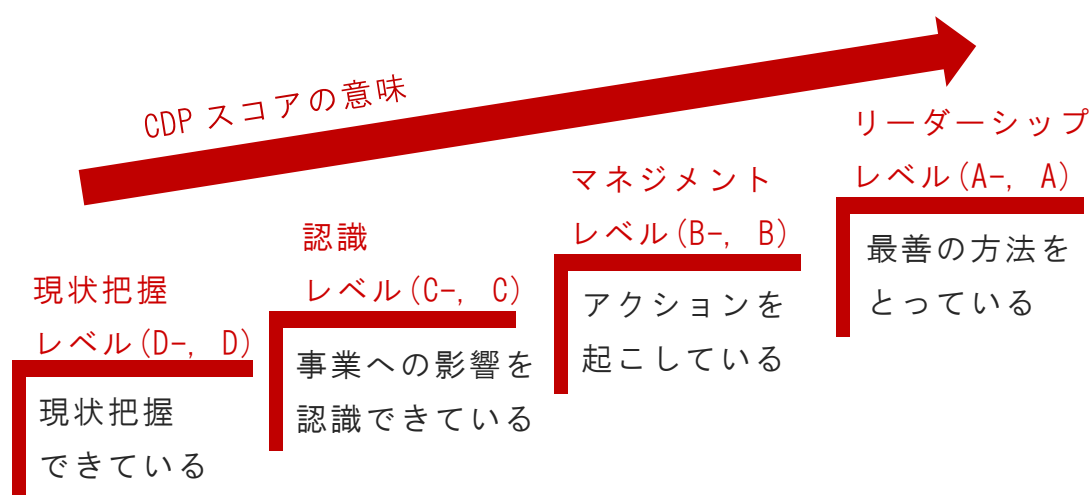
消費電力△25%削減

CDP 評価

共和レザーは、CDP(環境に関する質問書で企業を評価する国際団体)へ情報開示を行い、ランク評価を受けております。



CDP2024 では、気候変動が B、水セキュリティが B 評価で、いずれも、プラスチック製造業の平均を上回る評価を得られました。



非財務情報(TCFD)の開示

共和レザー2022年度の有価証券報告書から、「サステナビリティ情報開示」の項目で、TCFDに準ずる形での非財務情報の開示を始めました。以下、2025年6月に公開した有価証券報告書と同様の内容を開示します。

(1)ガバナンス

当企業グループのサステナビリティを含む会社経営に係る重要事項についての方針・計画の審議は、必要に応じて設ける各機能会議を経て経営会議で行っております。当社は、カーボンニュートラル推進室を新設(2021年5月)し、2050年度カーボンニュートラルに向けた計画策定、推進及び提案を行っております。また、環境マネジメントシステム、法規制に基づく環境管理については、環境管理室が主管となって実績のフォロー・評価を行い、6ヶ月に1回開催する「環境管理委員会」(代表取締役社長が委員長、環境管理室担当役員が議長)で報告並びに審議を行っております。「環境管理委員会」の議事・審議内容は、経営会議にて代表取締役社長が報告します。

(2)戦略

気候変動シナリオ分析

区分		想定される影響	影響	対応
移行 リスク (2℃未満 シナリオ)	政策・規制	・カーボンクレジットや炭素税によるコスト増加	中	・CO2削減目標を設定し、グループ全体で活動を推進
	技術	・エネルギー転換や材料の低炭素化によるコスト増加	大	・省エネやソーラー自家消費等の低コストの低炭素化を優先
	市場	・低炭素製品の要求に対応できないと受注減少	大	・低炭素製品や循環型経済に対応できる製品を開発
	評判	・環境取り組みの遅れによる投資家の評判低下	中	・CDPや環境レポートなどで積極的に情報開示を行う
物理 リスク (4℃ シナリオ)	急性	・自然災害による操業停止や供給網の寸断	小	・サプライヤーや関連会社と連携して供給網を強靱化
	慢性	・気温の上昇による空調コスト増加	小	・省エネや生産性の改善などにより操業コストを抑制
機会 (2℃未満 シナリオ)	エネルギー・資源	・省エネやエネルギー転換によるコスト削減	中	・省エネやソーラー自家消費等の低コストの低炭素化を優先
	製品・市場	・環境対応製品による付加価値上昇と売上増加	中	・低炭素製品や循環型経済に対応できる製品を開発

非財務情報の開示

当社は、気候変動によるリスク・機会と影響度の検討のため、シナリオ分析の実施を進めております。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)や、国際エネルギー機関(IEA)の情報を参照して、2℃未満シナリオと4℃シナリオを設定しています。今後もシナリオ分析を定期的の実施して、リスク・機会への対応を進めてまいります。

(3)リスク管理

当社は環境方針に基づき環境関連のリスクを特定し、その低減に向けた目標を定めて各部門が改善を推進します。その実績についてはマネジメントシステム(ISO14001)を活用して各部門で評価し、各環境関連分科会で報告・議論した後に、全社の環境管理委員会で報告・審議します。さらに発見された重大なリスクについては、6ヶ月に1回開催しグループ各社の担当役員が出席する危機管理委員会において報告、諸施策の審議決定を行っております

(4)指標と目標

当社では、CO2 排出量(Scope1,2)の 2025 年度△30%(2013 年度比)、2030 年度△50%(2013 年度比)、2050 年度カーボンニュートラルを目標として設定しております。また、当企業グループ連結では、2035 年度△50%(2021 年比)、2050 年度カーボンニュートラルを目標として設定しております。「①再生可能エネルギーなどの導入」、[②設備投資・技術革新などの応用]、「③日常改善の推進」を軸として、CO2 排出量削減活動を進めております。2024 年度も、計画通りに CO2 排出量削減活動を行っております。活動内容の詳しい内容については、当社ホームページ上で「環境レポート」として公開する予定です。

CO2 排出量(Scope1,2)

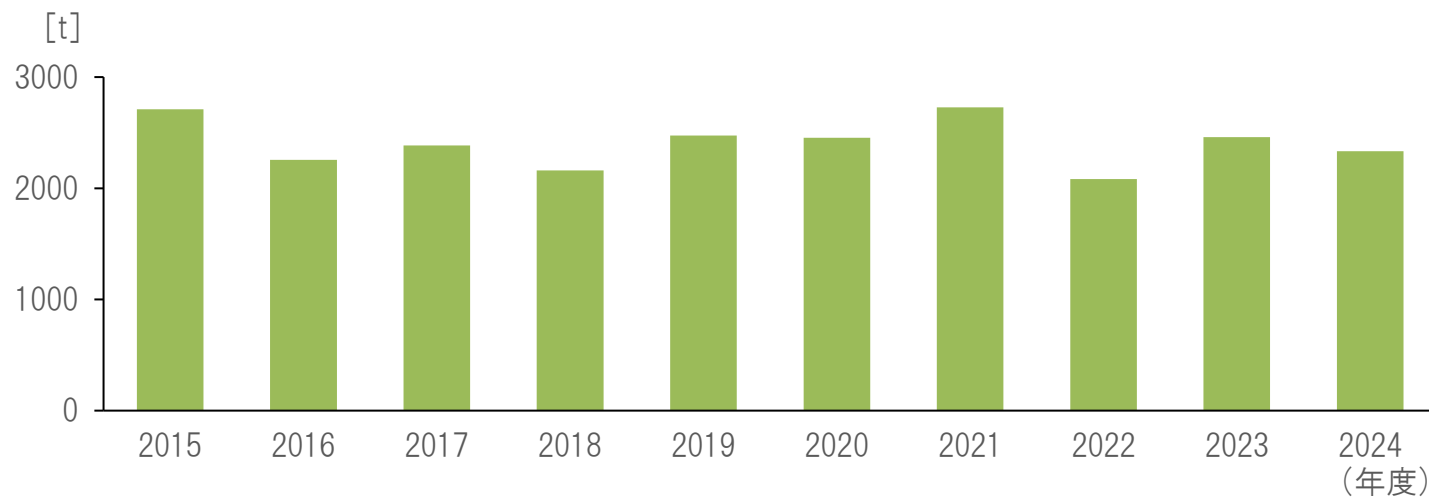
	実績 (t-CO2)		目標	
	基準年	2024 年度	中期	長期
共和レザー単体	37,235 (2013 年度)	27,242	2030 年度▲50% (2013 年度比)	2050 年度 カーボン ニュートラル
グループ連結	59,102 (2021 年度)	53,086	2035 年度▲50% (2021 年度比)	

算定条件:Scope1 の換算係数は環境省の数値、Scope2 の換算係数はマーケット基準

廃棄物量

共和レザーでは、限りある資源を有効活用し、環境負荷を低減するため、産業廃棄物の削減活動を行っております。

廃棄物量



■産廃 PJ 活動

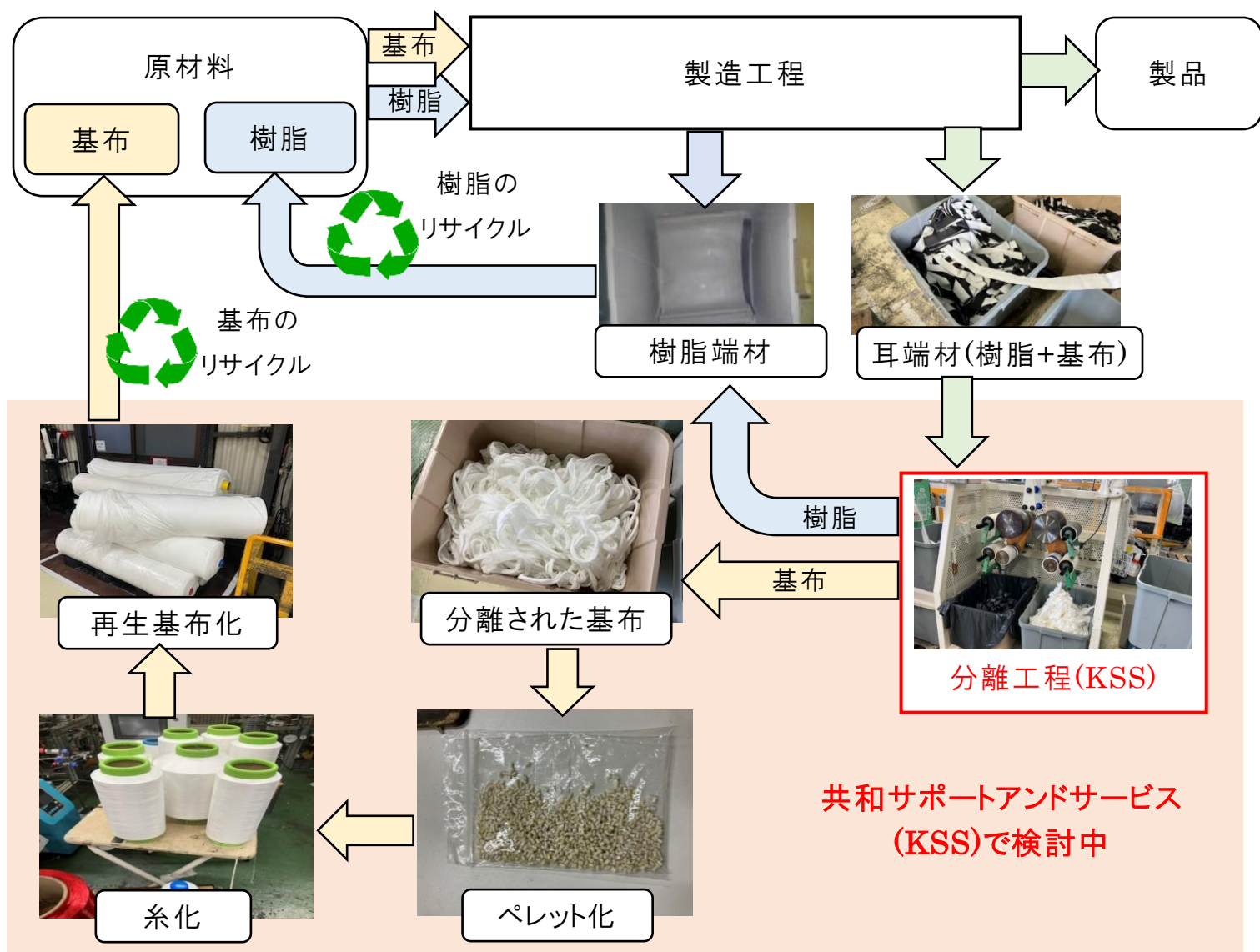
発生の抑制：工場毎の廃棄物発生内容の把握と削減改善の実施

再利用の推進：社内・社外での廃棄物資源化の実施

樹脂・基布のリサイクル

共和レザーでは、製造工程内で発生した樹脂の端材を同じ工程でリユースするだけでなく、樹脂と基布が貼り合わさった端材を分離し、再び原材料として使用可能な状態へのリサイクルも行っております。

共和サポートアンドサービス(KSS)では、共和レザーから発生した廃材塩ビをPVCと基布に分離し、PVCは共和レザー内でリユースしています。基布はもう一度糸に再生し、再生基布に加工する活動を共和レザーと共同で検討しております。



水資源の循環

原材料だけでなく、水も自然環境の資源です。水を循環して利用することで、取水量と排水量を減らし、自然環境への負荷を減らしています。

■新城工場 水循環装置設置（工業用水使用量削減）

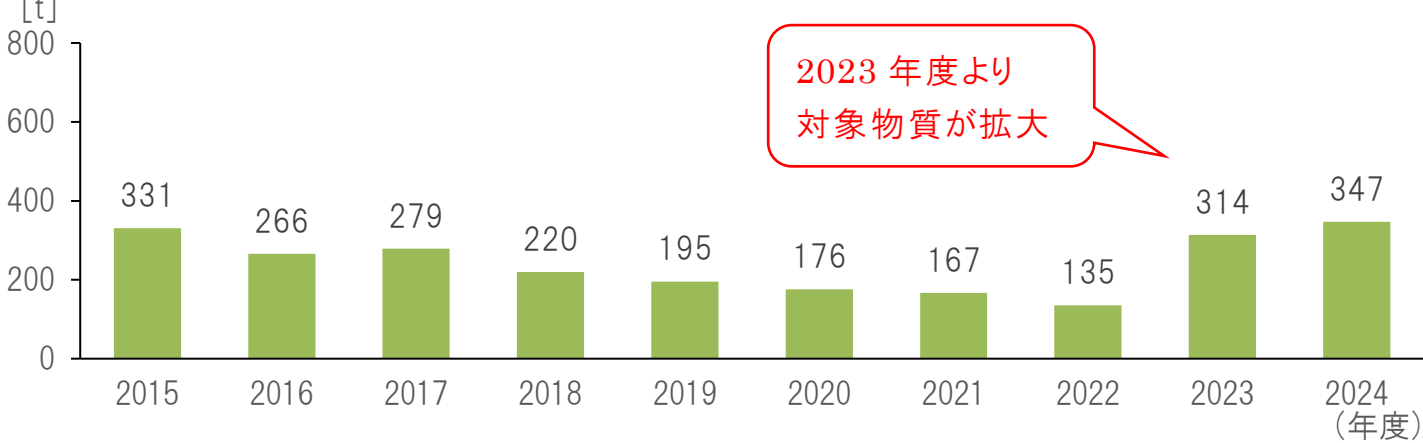
以前は排水溝に放水していたものを循環型にして水使用量を 40 トン/月削減しました。



PRTR 対象物質

共和レザーでは、シックハウス症候群などの原因となるトルエンなどの有機溶剤を別の物質へ置き換えて、使用量低減を進めています。また、排ガス中の有機溶剤を燃料として再利用する設備を導入して、環境負荷物質の有機溶剤が大気中へ排出される量を抑えています。

PRTR対象物質の排出量・移動量



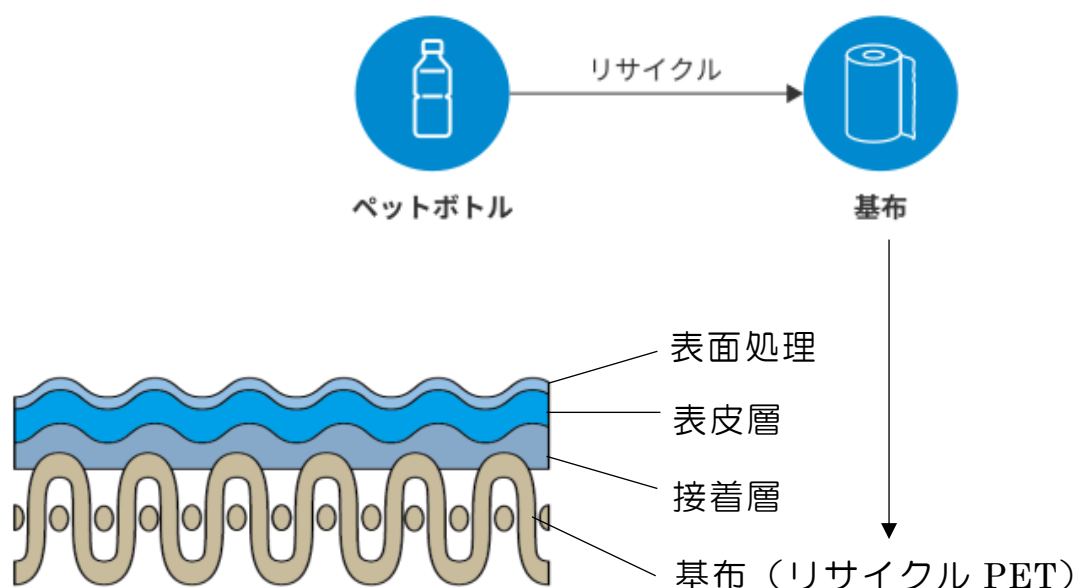
PRTR 対象物質の排出量・移動量[t]

-:対象未満 (年度)

届出対象物質	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
アンチモン及びその化合物	7.2	6.8	7	7.8	8.3	8.2	9	8.2	9.1	8.7
トルエン	93.7	76.6	67.7	46.8	35.8	27.5	22.2	19.3	15.2	12.3
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	32.6	16.8	9.8	1.5	0.1	-	-	-	-	-
メチルナフタレン	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
シクロヘキサン	-	-	-	-	-	-	-	-	15.4	16.0
N,N-ジメチルホルムアミド	192	162.5	189.8	160.8	147.6	136.1	131.1	103	136.9	156.3
トリエチルアミン	2.9	2.9	2.7	2.9	3.3	3.7	4.7	4.6	5.5	4.5
ノルマル-ヘキサン	2.3	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4	0.3
ほう素化合物	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
エチレングリコールモノブチルエーテル	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	1.4
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	対象外								0.0	0.0
アルファ-(イソシアナトベンジル)-オメガ-(イソシアナトフェニル)									0.0	0.0
ポリ[(イソシアナトフェニレン)メチレン]									1.9	1.6
テトラヒドロフラン(THF)									112.3	132.8
メチルイソブチルケトン									4.5	5.0
N-メチル-2-ピロリドン									11.2	7.9
2-(2-メトキシエトキシ)エタノール										
ジエチレングリコールモノメチルエーテル										
合計	330.9	265.9	278.5	219.9	195.2	175.6	167.2	135.4	314.0	346.9
届出対象物質数	7	6	7	6	6	5	5	5	15	15

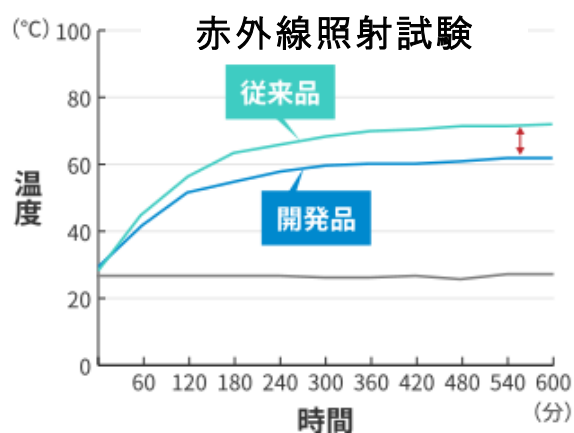
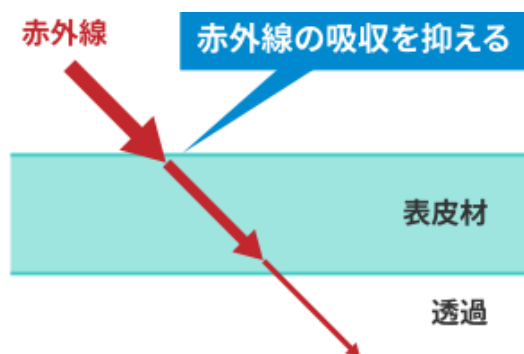
リサイクル PET 使用製品

共和レザーでは、製造時の燃料や電力による CO2 だけでなく、原材料由来の CO2 を削減するために、PET ボトル由来のリサイクル基布を使用した合成皮革も開発しています。



昇温抑制機能

共和レザーでは、環境材料への置き換えだけでなく、新しい機能を持った製品を開発しています。昇温抑制機能を持った自動車表皮材は、車内のエアコンの省エネになるため、自動車使用時も含めた製品ライフサイクル全体での CO2 排出削減に貢献します。



環境対応製品

バイオ材料配合製品

共和ライフテクノではバイオマス材料を配合したバイオヴィーガン合成皮革「LeNa」を開発しています。間伐された竹を使用した BambLena、廃棄される貝殻を使用した SheLena などのバリエーションがあります。



<https://www.kyowalt.co.jp/lena/>



これまでに開発・上市した「LeNa」については、バイオ度 20～30%でしたが、今後バイオ度 50%の製品設計確立を目指し、開発を進めていく予定です。

また、これまでの環境対応商品については、鞆、袋物を主要用途とし展開してきましたが、今後は、スポーツ分野の商品開発も進めていく予定としております。

上記バイオヴィーガン合成皮革に加え、今回新たにヒノキを配合した製品を開発し、本格的に上市しました。

バイオヴィーガン合成皮革については、これまで鞆、袋物を主要用途として展開してきましたが、現在スポーツ分野の商品への展開を検討しており、今期は当製品の設計確立を目指し、活動中です。

エシカルな合成皮革 Sobagni

共和レザーでは、「Sobagni(ソバニ)」ブランドで、雑貨類の販売を行っております。

ETHICAL
(倫理的)



<https://sobagni.jp/>

イタリア語の sogni(たくさんの夢)と、
日本語の「そばに」をかけあわせた造語

地球環境や地域社会と共生し、人にも動物にも、地球にも優しい合成皮革であり続けるために、Sobagni の取り組みをご紹介します。

【Brand Statement】(ブランドステートメント)

大量生産、大量消費。そのパラダイムからようやくシフトしつつある今。

わたしたち Sobagni が次に描きたいのは、「消費のない世界」。

消費一使ってなくすこと。辞書に書かれたその概念を無くしていく。

だからこそわたしたちは、軽く、汚れに強く、加水分解さえしない、ずっと使える合皮をつくる。
ファッション、日用品、アウトドア。Sobagni から生まれるさまざまなアイテムは、世代を超えながら、
持ち主を変えながら、時にはリメイクされながら、必要としてくれるあなたのそばにいる。

一生モノを、もっと手軽に、身近に。そんな素材をつくっていく。

「もったいない」。それこそが日本らしいエシカルだと、わたしたちは信じているから。

ずっと、あなたの。



アニマルフリー／環境配慮

合成皮革は「アニマルフリー」な素材です。そのうえ、Sobagni の素材は、環境負荷物質や環境ホルモンに該当する化学物質は使用せず、人にも動物にも環境にも優しい素材です。



サステイナブル

圧倒的な軽さ(※1)、自動車基準の高い耐久性、10年以上ずっと変わらない質感と品質(※2)。素材の特性を活かした使いやすく、飽きのこないデザイン。



社会貢献

「私たちの素材や活動によって、社会に役立つことをしたい」という思いから、Sobagni では社会貢献活動を積極的に行っています。

社会貢献

私たちは毎年、地域の環境保全活動に参加し、地球の未来をより良くするための取り組みを続けています。具体的には、清掃活動などを通じて、地域の自然環境の保護に貢献しています。これからも地域との共生を図りながら、持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。

私たちの企業は、環境保全を重要な使命と捉え、地域社会と協力して地球の未来を守るための活動を推進していきます。

地域の清掃活動

■ 佐鳴湖クリーン作戦

浜松市にある佐鳴湖の清掃活動

2024/8/4(日) 佐鳴湖クリーン作戦・・・当社から 53 名参加



地域の清掃活動

■ ウェルカメクリーン作戦

浜名湖沿岸のウミガメ産卵地の清掃活動

2024/5/12(日) 第35回ウェルカメクリーン作戦・・・当社から 113 名参加



■ しんしろクリーンフェスタ 2024

新城市の共和レザー新城工場周辺市道の清掃活動

2024/10/19(土) しんしろクリーンフェスタ 2024・・・当社から 18 名参加



社会貢献

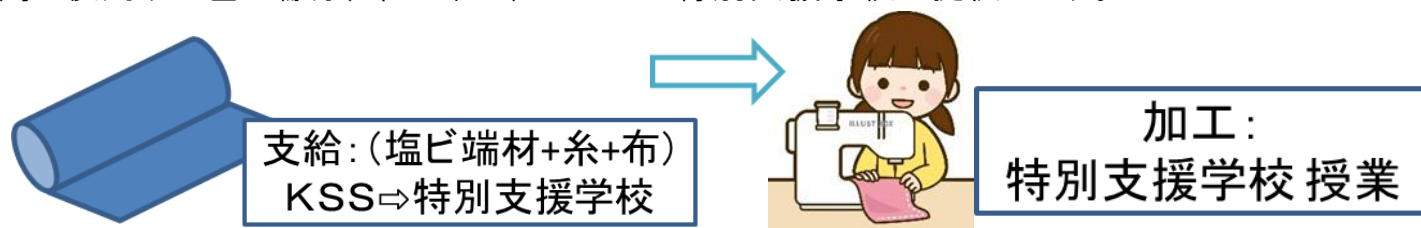
特別支援学校に教材用として塩ビ端材を提供

共和サポートアンドサービス(KSS)のリサイクル事業で再利用できない塩ビ端材を、特別支援学校の教材用として提供を始めました。

最初はどんなものができるのか分からないので、試しに約 10m の塩ビレザーの巻物を渡して試作品を作製していただきましたところ、下記の 4 点のノベルティグッズが出来上がってきました。



この 4 個の中からポケットティッシュカバーを選び、半年間授業で作製することに決めました。その間に使用する塩ビ端材、糸や布を、KSS から特別支援学校に提供します。



ダイバーシティ経営企業表彰

令和 6 年度 静岡県ダイバーシティ経営企業に、共和サポートアンドサービスが選定され、表彰されました。ダイバーシティ経営とは、多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し価値創造につなげている経営のことです。

今後も「多様性をチカラに」をモットーに社員ひとり一人が生き生きと働くことができるよう変化を恐れず、改善を続けることで成長を続けていきたいです。

